

木下尚江 きのした 尚江 小説家、評論家。明治二年九月八日信濃國生れ、昭

和十一年十一月五日歿（一八九一—一九三七）。初名回惠。筆名なお江、みど

り、世界に於ける社會主義の一人、傍聴一記者、平知主義の一人、平

和平等主義の一人、松翠生、松野生、松野翠、樹下石上人、樹蔭生、

殘陽孤客、殘陽生、綠鬢翁、美倉里、罵花、罵花野郎、罵鹿生、△○

生等。明治二十一年東京華商學校卒。二十六年辯護士を卒業し、キリ

スト教に入信。三十年普選運動を興し下獄、二十二年毎日新聞社入社、

翌年社會主義協會に加盟。二十四年社會民主黨創設に参劃、日露戰時

非戰論を法解、二十八年石川二郎等と雜誌『新紀元』創刊。翌年以

降社會運動から離れ、宗教に傾斜。

著書『朝報社志講演集・第貳輯』（山縣五十雄 幸徳 秋水 合著、明治二十六年七月

十八日萬成社）、『（註）長人の告白・壹（THE CONFESSIONS OF A HUSB-

AND VOL. 1）』（ターサーロウズ共譯、明治二十八年十一月二十二日

有樂社）、『社會主義の詩』（合著・櫻村彦編、明治二十九年四月十

一日由分社）、『懺悔』（明治二十九年十一月二十日金尾文淵堂）、

『飢渴』（明治四十年四月二日昭文堂）、『墓場』（明治四十一年十

二月十一日昭文堂。再刊『墓場』四版・大正四年十一月五日中央書

院）、『懲罰』（明治四十一年六月

五日昭文堂）、『荒野』（明治四十

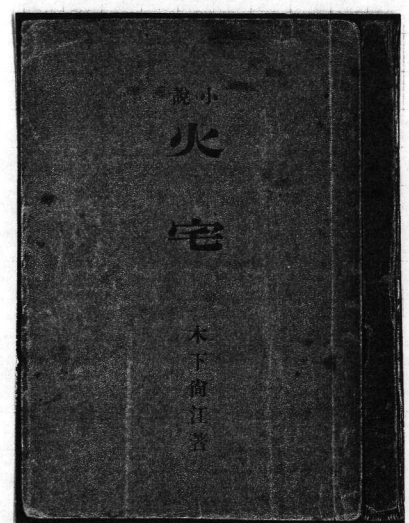
一年十月十五日

昭文堂）、『火

宅』（明治四十



二年六月十四日弘學館書店、大倉書



店賣刷）、『法然と親鸞』（明治四十四年）二月十日金尾文淵堂・厥杉
木染江堂）、『野人語・第一』（明治四十四年七月十四日金尾文淵
堂）、『創造』（明治四十五年）二月

一日金尾文淵堂、勉強堂書店發賣。

石川二郎郎「流人語」、根橋龜之助

「神人の權威」附載）、『現今呼吸

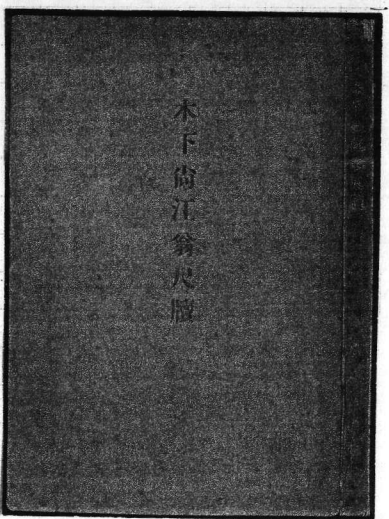
靜産法（附各士實驗談）』（合著・

高梨初治郎編、明治四十五年四月）

十四日春歌堂）、『田中止遠翁』（大正十年八月十日新潮社）、『島

田二郎全集・第二卷』（編、大正十二年十一月十四日島田二郎全集刊

行會、勉強社書店發賣）、『木下尚江集』（2、3『改良人の自白』



全二册一上・昭和四年二月十日、下

・四月二十日、『火の柱』八月）

十日春秋社）、『木下尚江翁尺牘』

（青木吉藏編、昭和十二年八月）二十

日發賣・無義社）、『良人の自白』

全四册（前篇・昭和二十八年）二月）

十五日、中篇・七月、十五日、後篇・八月五日、續篇・九月五日岩波

書店「岩波文庫」）、『火の柱』（昭和二十九年二月五日岩波書店

「岩波文庫」）等。

文獻、柳田泉『日本革命の予言者 木下尚江』（昭和二十六年五月）二十日春秋社

「春秋ブックス」）、後神俊文編『木下尚江演說年表稿』（昭和二十

六年六月）二十九日後神俊文刊「木下尚江研究資料」）等。

